2月19日　ルカによる福音書9章10～17節　今日の説教から
説教題：「神様に養われて」

今日の個所には、イエス様によって５つのパンと２つの魚が分けられ、お腹を満たされる群衆の話が記されています。魚と言えば、皆さまは裏面下にある「イクトゥス」というマークに見覚えがあるでしょうか。中に書かれているギリシャ語は「ＩＸΘＹΣ」、これ自体は「魚」という意味の単語です。ただそれだけではなく、「ＩＨΣＯＹΣ　ＸＰＩΣＴＯΣ　ΘＥＯＹ　ＹＩＯΣ　ΣΩＴＨＰ 」、ギリシャ語でイエス・キリスト・神の・子・救世主という単語の頭文字であり、つまりイエス様が救い主であることが示されています。

今日の個所では、派遣された弟子たちが帰って来て、多くの群衆がイエス様のもとへと集まった場面から始まっています。気がつけば日が傾くほどの時間になり、食事のために一度解散する必要がありました。しかしイエス様は、「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」と、無茶な要求をします。弟子たちが「5000人も男たちがいるのに自分たちはパン五つと魚二匹しか持っていません」と訴えると、イエス様はそのパンと魚をいつものように割いて弟子たちに渡し、気がつけば群衆は満腹になるほどに食べることが出来ていました。

ここでイエス様が行った奇跡について、細かいことは何一つ書かれていません。旧約聖書の引用も無ければ、驚く形で増えていくパンや魚も描かれてはいません。ただ確かなのは、イエス様に用いられて弟子たちが奇蹟の担い手となったこと、そして祈りと賛美というごく普通の食卓の光景によって、イエス様と同じ食卓に招かれた群衆たちは豊かに満たされて、有り余るほどに食べることが出来た、ということです。

パンとは旧約聖書の時代から神殿において神様に捧げる供え物であり、その土地で取れた小麦を用いて作られた、神様の恵みによって生かされている証しであります。そして、魚とは「イエス・キリストが神の子であり救世主である」ことがその名前に込められている、つまりは救い主であるイエス様自身であります。この時、集まった人々は神さまからの恵みによって、イエス様自身によって養われる群れとなったのです。

神様に養われるということは、血のつながった家族による束縛から外れ、神様の支配の中に生きることになります。特に、私たちが住むこの日本において「家」の影響力はとても大きなものです。時に理不尽なことも、「家族である」という理由によって強いられることがあります。しかし、私たちは神様の子どもとして新しい命を与えられて、新しい家族と兄弟姉妹の中で歩む者であります。家族のことを邪険にしろと言っているわけではありませんが、「家族だから従わなくてはいけない」という束縛から、私たちは既に自由にされているのです。パウロがローマの信徒への手紙の中で語るように、私たちは罪の奴隷でもなく、家族や他人の奴隷でもなく、ただ神様に養われて生きる一人一人となることがゆるされています。だからこそ、この神様の霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と、神様に対して自分の父親のように呼びかけることができるのです。

私たちは、どんな時も私たちの父である神様にすべてを委ねることが出来ます。どんな時も父なる神様を頼ることができます。幼子が自分の父親を、母親を完全に信頼しきるように、私たちも神様のことを完全に信頼しきって、すべての事を神様に委ねることが出来ます。それが、「父なる神さまに養われる」ということではないでしょうか。

暖かい神様の御腕に抱かれている安心感を胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書９章10～17節

- 10:使徒たちは帰って来て、自分たちの行ったことをみなイエスに告げた。イエスは彼らを連れ、自分たちだけでベトサイダという町に退かれた。群衆はそのことを知ってイエスの後を追った。イエスはこの人々を迎え、神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいるのです。」しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買いに行かないかぎり。」というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、『アッバ、父よ』と呼ぶのです。（ローマの信徒への手紙８章15節）

ガラテヤの信徒への手紙４章1～7節

1:相続人は、未成年である間は、全財産の所有者であっても僕と何ら変わるところがなく、父親が定めた期日までは後見人や管理人の監督の下にいます。同様にわたしたちも、未成年であったときは、世を支配する諸霊に奴隷として仕えていました。しかし、時が満ちると、神は、その御子を女から、しかも律法の下に生まれた者としてお遣わしになりました。それは、律法の支配下にある者を贖い出して、わたしたちを神の子となさるためでした。あなたがたが子であることは、神が、「アッバ、父よ」と叫ぶ御子の霊を、わたしたちの心に送ってくださった事実から分かります。ですから、あなたはもはや奴隷ではなく、子です。子であれば、神によって立てられた相続人でもあるのです。

イクトゥス